

■ ■ 風疹(ふうしん)とその予防接種について ■ ■

内科 阿部信次郎

4月初旬の時点で2019年第1週から12週までの風疹患者報告数が1000人を超えたとのニュースがありました。患者の多くは成人男性で、特に30～50歳代では風疹の抗体をもっている人が少ないと言われていました。2022年3月31日までの間に限り、昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までの間に生まれた男性は風疹定期予防接種の対象者(風疹抗体検査実施も無料で実施可能)とされており、予防接種の重要性を皆様にご存知いただくために風疹とその予防接種についてお話しします。

・風疹について

風疹ウイルスによって生じる病気です。人から人へ咳やくしゃみなどを介して感染します。一般的には1人の患者さんから5～7人に感染させる可能性があると言われていています。感染してから14～21日で発熱、発疹(約3日程度持続することが一般的)、リンパ節の腫れ(耳の後ろや首のリンパ節)などを認めることが多いです。他人への感染力はおおよそ発疹出現前の7日間と出現後7日間とされており、成人は小児に比べて症状が重くなることがあります。特に妊娠20週までの妊婦さんが感染してしまうとお腹の中の赤ちゃんまで感染してしまい、眼、耳、心臓などに障害をもって出生する可能性もあります。風疹に対する治療法はなく、各種の症状に対して対症療法を行うことが一般的です。

風疹を予防するためには風疹ワクチン接種が有効です。

・風疹ワクチンについて

風疹ワクチンを接種することで95%以上の方々が免疫をつけることができるとされており、基本的には2回接種が推奨されています。注意すべき点は妊娠可能な婦人はあらかじめ約1か月間避妊した後にワクチン接種するとともに、ワクチン接種後約2か月間は妊娠しないように注意することです。

適切にワクチン接種をすることで自身が病気にかかることを防ぐだけでなく、周囲の方々を守ることができます。



風疹予防にワクチン接種を！

三宿病院内科でもワクチンの接種が出来ますので、ぜひご相談ください。